

第59期 中間株主通信

2025年4月1日 – 2025年9月30日



次の成長ステージを見据え、 さらなる飛躍へ

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業へのご理解とともに格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第59期中間会計期間（2025年4月1日～2025年9月30日）の営業状況をご報告申し上げ、中期経営計画にもとづく施策の進展をご説明させていただきます。

2025年11月

代表取締役社長 **加納 慎也**



Q

上期を振り返り、受注活動の状況と業績についてご説明願います。

A

この半年間は、前期に引き続きオフィスの移転やリニューアルに伴う需要が高水準を示し、主力製品の可動間仕切「マイティスマートレール」を中心にオフィス向けの各品目が受注を伸ばした他、トイレブースが学校・体育施設や商業施設、工場向けで好調に推移し、新製品「haremo（ハレモ）」も受注を確保しました。

営業施策では、全国のショールームを活用したお客様へのアプローチや、販促物を通じたブランド訴求が功を奏し、受注の増加につながっています。ショールームは近年、東名阪で大型化と機能拡充を進めており、この上期は名古屋ショールームをアップデートしました。

こうした受注活動の成果を受け、生産体制はほぼフル稼働で対応しており、2025年5月に着工した加賀工場2

号棟の完成が待たれる状況となっています。

結果として上期の業績は、期初計画をやや上回る形で増収・増益を遂げ、売上高211億7百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益11億92百万円（同22.7%増）、経常利益12億20百万円（同16.4%増）、中間純利益8億17百万円（同10.8%増）となりました。

売上高は、受注を伸ばした可動間仕切をはじめとするオフィス向け品目とトイレブースが牽引し、文化施設向けの大型案件も増収に寄与しました。またデザインや機能を充実させた高付加価値製品の投入が単価を押し上げた他、今期より進めている価格の適正化が利益の改善につながりました。費用面では、トイレブースの表面材に用いるメラミン板の価格は上昇傾向が継続しているものの、原材料価格全体としては—

服しております。人材投資等の販管費の増加が主なコストアップ要因となりましたが、増収効果でこれを吸収しています。

なお上期のトピックスの一つとして、第38回日経ニューオフィス賞にて、当社の東京ショールーム「101 TOKYO

SHOWROOM OFFICE」が「ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オフィス賞」の栄誉を受けました。創意と工夫をこらしたオフィスを表彰する同賞の評価に自信を深め、ショールームの活用をさらに推し進めていく考えです。

※ 本件受賞の詳細は9頁をご参照ください。

Q

中期経営計画の折り返しを迎え、進捗をどう評価していますか？

A

2028年3月期を最終年度とする5ヶ年中期経営計画「NEXT VISION 2028」は、計画始動から2年半の折り返しを迎えました。業績目標として「売上高年平均成長率4～6%（2023年3月期基準）」「売上高営業利益率8～10%」「ROE 8%以上」を設定した成長性・収益性の改善および資本効率向上への取り組みは、オフィス向け可動間仕切を中心とする受注・販売の好調を得て、着実に進展しています。基本方針に掲げる「既存間仕切事業の成長」の施策がしっかり成果を上げているものと評価できます。

一方、基本方針のうち「新規製品の創出」は、まだ十分な業績貢献に至っておらず、打ち手も不足している状況です。外部スライディングウォールなど、訴求力のある製品を積極的に打ち出すべく、企画・開発の強化とともに見

せ方を工夫していく必要があります。また「生産・物流オペレーションの高度化」は、加賀工場2号棟が稼働する2027年5月以降に実施していく施策も多いのですが、足もとでは既存生産ラインの自動化や、納期調整による配送効率の改善などを進めています。計画3年目の通期業績は、期初の予想数値を変更せず、売上高465億円（前期比4.2%増）、営業利益40億60百万円（同11.7%増）、経常利益41億30百万円（同10.0%増）、当期純利益29億30百万円（同10.5%増）を見込んでいます。上期までに積み上げた受注残高をこなし、納品・売上につなげながら、2025年9月に投入した複数人数用ワークスペース「IDO（イド）」の拡販や、当社ショールームを活用した他社とのコラボレーション営業など、新たな事業展開に注力していきます。

Q

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

当社は、中期経営計画期間中の株主還元について、DOE 6%を目安とする方針を定めています。これにもとづき今回の中間配当は、1株当たり65円を実施しました。前期の中間配当は同60円ですが、2024年10月1日付で1：2の株式分割を行っているため、実質的に前期比35円の増配に相当します。期末配当は同65円（前期比30円の増配）を予定しており、合わせて年間配当額は、

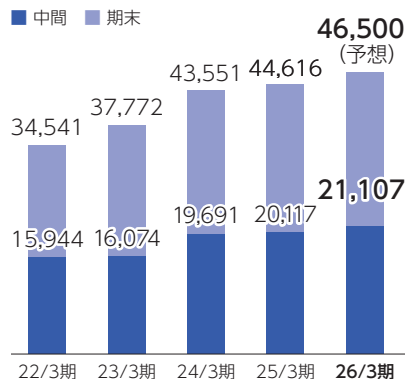
前期水準の2倍に相当する同130円となる見込みです。

今後も株主還元の強化に努めながら、成長性と収益性を継続的に向上させるべく、中期経営計画の基本方針に掲げた成長戦略を確実に遂行し、企業価値のさらなる拡大を図ってまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、当社事業へのご理解とともに長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

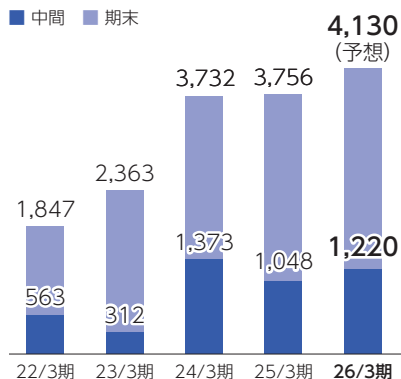
売上高

(単位：百万円)



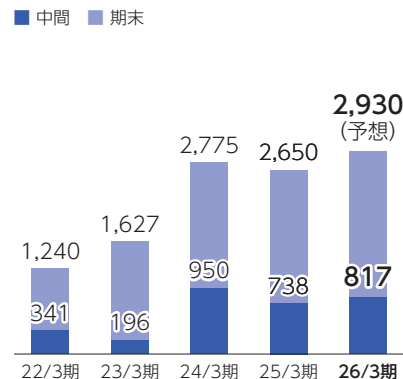
経常利益

(単位：百万円)



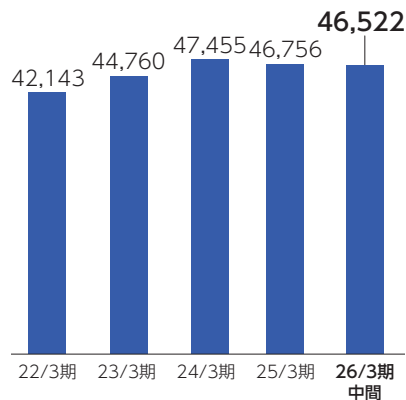
中間（当期）純利益

(単位：百万円)



総資産

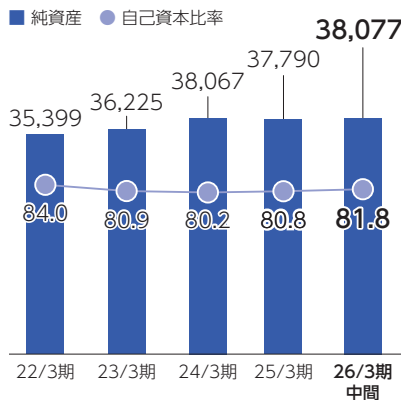
(単位：百万円)



純資産 自己資本比率

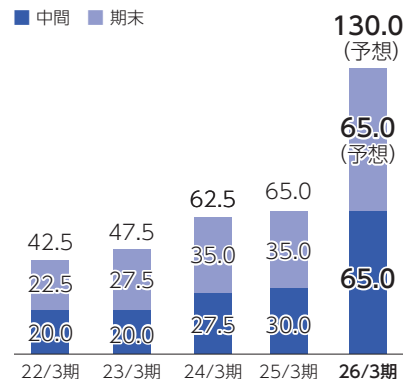
(単位：百万円)

(単位：%)



1株当たり配当金

(単位：円)



※2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。過年度の配当金についても遡及修正しております。

決算情報の詳細は、小松ウオール工業のWebサイトでもご紹介しています。

<https://www.komatsuwall.co.jp/ir/library/>



財務諸表要旨

貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日	当中間会計期間 2025年4月1日～ 2025年9月30日
資産の部		
流動資産	31,322	27,845
固定資産	15,433	18,676
有形固定資産	12,260	15,462
無形固定資産	415	436
投資その他の資産	2,757	2,777
資産合計	46,756	46,522
負債の部		
流動負債	6,373	5,837
固定負債	2,592	2,606
負債合計	8,965	8,444
純資産の部		
株主資本	37,701	37,949
資本金	3,099	3,099
資本剰余金	3,031	3,031
利益剰余金	33,776	33,966
自己株式	△ 2,207	△ 2,147
評価・換算差額等	88	127
その他有価証券評価 差額金	88	127
純資産合計	37,790	38,077
負債純資産合計	46,756	46,522

損益計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 2024年4月1日～ 2024年9月30日	当中間会計期間 2025年4月1日～ 2025年9月30日
売上高	20,117	21,107
売上原価	13,296	13,669
売上総利益	6,820	7,437
販売費及び一般管理費	5,849	6,245
営業利益	971	1,192
営業外収益	76	28
経常利益	1,048	1,220
特別利益	54	—
特別損失	3	0
税引前中間純利益	1,100	1,220
法人税、住民税及び事業税	297	389
法人税等調整額	63	13
法人税等合計	361	402
中間純利益	738	817

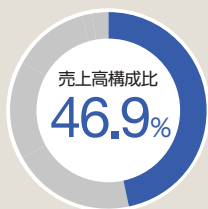
キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 2024年4月1日～ 2024年9月30日	当中間会計期間 2025年4月1日～ 2025年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,677	2,576
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,156	△ 2,563
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 669	△ 632
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△ 147	△ 620
現金及び現金同等物の 期首残高	13,521	13,649
現金及び現金同等物の 中間期末残高	13,373	13,029

品目別概況

可動間仕切



レイアウト変更の際、使用方法に応じて撤去、移設が可能な間仕切であります。

固定間仕切



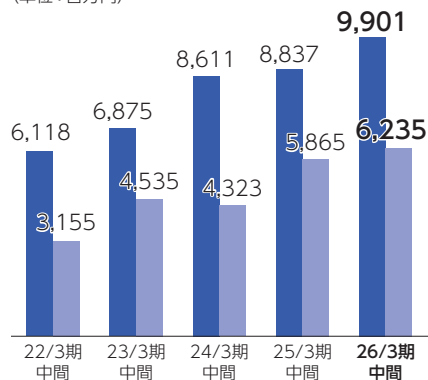
建物付帯工事として溶接により躯体に取付ける間仕切ならびに壁面化粧鋼板パネルの金属工事であります。

トイレブース

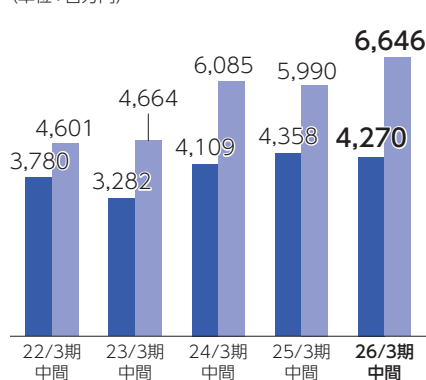


ユニット化したトイレ専用の間仕切であります。

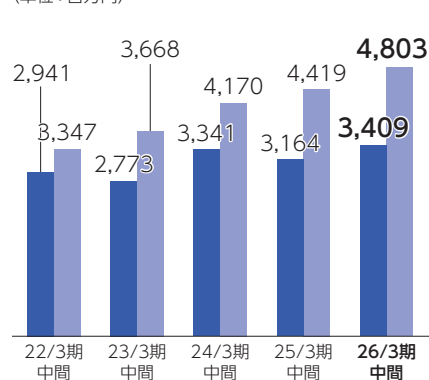
■ 売上高 ■ 中間期末受注残高
(単位：百万円)



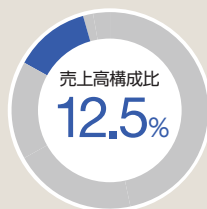
■ 売上高 ■ 中間期末受注残高
(単位：百万円)



■ 売上高 ■ 中間期末受注残高
(単位：百万円)

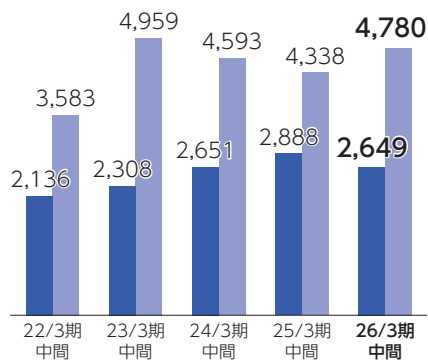


移動間仕切

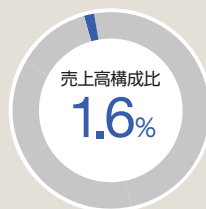


ホテルの宴会場等の間仕切として、ユーザー自身が移動させて使用する間仕切であります。

■ 売上高 ■ 中間期末受注残高
(単位：百万円)

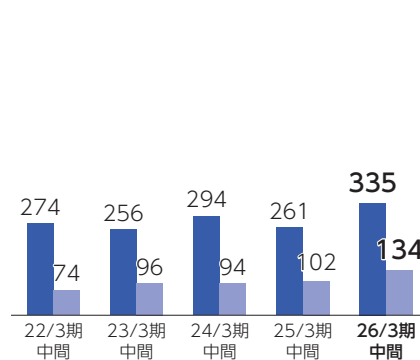


□一間仕切

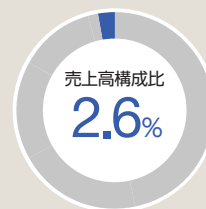


主に、オフィス用衝立およびローパーティション等のオフィス家具であります。

■ 売上高 ■ 中間期末受注残高
(単位：百万円)

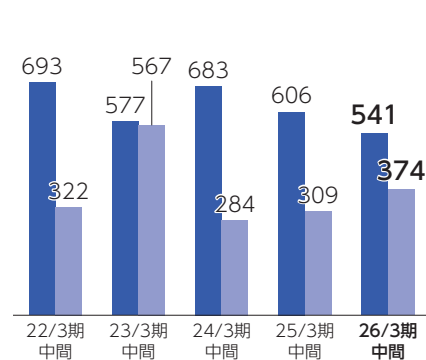


その他



主に、ABW型の働き方に対応した間仕切ならびに既存間仕切の解体・移設組立であります。

■ 売上高 ■ 中間期末受注残高
(単位：百万円)





“動き”を見せる拠点から“多様性”を見せる拠点へ

Show Move Hub Nagoya KOMAZOO

2025.7.30 Grand Open

小松ウオールはライブ兼ショールーム「Show Move Hub Nagoya」を増床し、新エリア「KOMAZOO」をオープンいたしました。

製品の進化・働き方の進化を表現できるようにデザインされたこのエリアは、様々な製品や生き生きと働いている人々を、動物園の行動展示のように体感いただけるショールームとなっています。

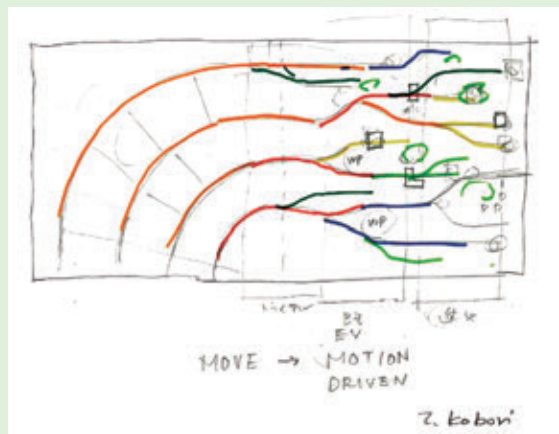
Show Move Hub Nagoya KOMAZOOに是非お越しください。



小堀哲夫建築設計事務所 小堀哲夫氏メッセージ

空間デザインコンセプト： 系統樹という進化

小松ウォールの進化は止まらない。MOVEという動きを持った空間の次は進化の系統樹のような場所である。生命や人類は動きという力を持って、常に環境に対応し新しい世界へと踏み出していった。この進化の系統樹は私たちにもさまざまなインスピレーションを与えてくれる。人間も環境も、道具という物と共に進化した。動物とはいわゆる動く物である。私たちは系統樹のような進化と共に、動物園のようなジャングルのような新たな新世界に向けて、歩き出そうという空間と働き方を目指してデザインしている。人々の行動や居場所の選択は、混沌としたジャングルの中を彷徨い、新しい世界を自分の足で観察して偶発的に見つけ出すことを期待している。動物は動き出すことで始まる。



DATA >>

ミッドランドスクエア15F
名古屋ショールーム

〒450-6215 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目7-1 ミッドランドスクエア15F
TEL 052-571-1611 営業時間 9:00~18:00 (休館日 土・日・祝)
ショールームにお越しになられる場合は、事前にご予約をお願いいたします。





101 TOKYO SHOWROOM OFFICE (東京ショールーム) 第38回「日経ニューオフィス賞」を受賞

このたび当社の「101 TOKYO SHOWROOM OFFICE」が、第38回 日経ニューオフィス賞※において「ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オフィス賞」を受賞いたしました。

オフィスは、社員が普段どおりに働く姿を見ていただくことで、来訪者が製品の使い方や効果を自然に体感できるよう設計されています。また、部門を越えた顧客対応や、開かれた空間での自然なコミュニケーションを通じて、オフィスが「つながり」を生み出す場として機能している点が高く評価されました。

今後も当社は、快適で創造性を高める空間づくりを通じて、より良い働き方と価値提供を追求してまいります。



※「日経ニューオフィス賞」は、日本経済新聞社と一般社団法人ニューオフィス推進協会(NOPA)が主催する、快適で機能的なオフィス空間を表彰する制度です。1988年に創設されて以来、創意工夫を凝らしたオフィスを選定し、全国規模で表彰を行っています。

DATA >>
KANDA SQUARE
東京ショールーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町二丁目2-1 KANDA SQUARE 15F-16F
TEL 03-5280-9241 (代) 営業時間 10:00~17:00 (休館日 土・日・祝)
ショールームにお越しになられる場合は、事前にご予約をお願いいたします。



納入事例

BLUE FRONT SHIBAURA (ブルーフロント芝浦) TOWER S 28階共用部BLUE SKY LOUNGE

高層階スカイテラスに当社の外部スライディングを採用

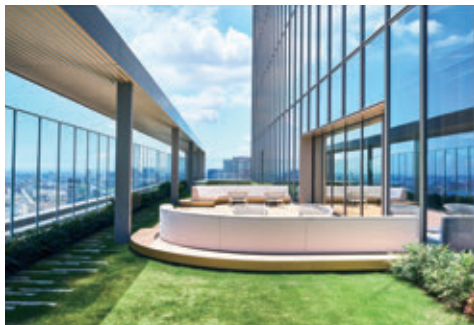
小松ウオールは、野村不動産株式会社と東日本旅客鉄道株式会社が共同で推進する国家戦略特別区域計画の特定事業「BLUE FRONT SHIBAURA」において、ツインタワーの1棟目である「TOWER S」の28階オフィス共用部「BLUE SKY LOUNGE」に、外部スライディング間仕切を納入しました。

「高層階でも移動間仕切の利便性と意匠性を活かしたい」というご要望に応え、従来の構造を根本から見直し、

実験と検証を重ねて開発を進めました。耐風圧性や水密性など外部環境への対応が求められる中、当社の技術力を活かして課題を克服し、無事納入に至りました。

今後も当社は、空間の可能性を広げる製品開発を通じて、多様なニーズに応えてまいります。

設計：株式会社横総合計画事務所、清水建設株式会社、
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド、
株式会社日建設計
施工：清水建設株式会社 納入製品：外部スライディング



会社概要／株主メモ

(2025年9月30日現在)

会社概要

商 号 小松ウオール工業株式会社
(KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD)
設 立 1968年1月22日
資 本 金 3,099,945,552円
事 業 目 的 1. スチールおよびアルミニウム製品の製造、
販売ならびに工事施工
2. 室内装備品の販売および設計施工
3. 前各号に附帯する一切の事業
従 業 員 数 1,445名
(注) 従業員数には、嘱託およびパートタイマー（計40名）は含まれておりません。

取締役一覧

代表取締役社長執行役員	加 納 慎 也
取締役常務執行役員	山 田 新 一
取締役常務執行役員	綾 由紀夫
取 締 役	蜂 谷 俊 雄
取 締 役	古 谷 まゆみ
取締役常勤監査等委員	比 嘉 正 人
取締役監査等委員	中 田 浩 一
取締役監査等委員	松 山 純 子

(注) 取締役 蜂谷俊雄氏、古谷まゆみ氏、中田浩一氏および松山純子氏は社外取締役であります。

株式の状況

発行可能株式総数 50,000,000株
発行済株式の総数 19,721,980株
単元株式数 100株
株主数 15,206名

大株主

株 主 名	持株数(株)	持株比率 (%)
KANO株式会社	3,463,698	19.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,742,000	9.70
株式会社日本カストディ銀行	803,500	4.48
小松ウオール工業従業員持株会	774,680	4.32
原田株式会社	360,000	2.01
加納 裕	322,024	1.79
明治安田生命保険相互会社	309,200	1.72
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065	295,600	1.65
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	287,398	1.60
INTERACTIVE BROKERS LLC	221,000	1.23

(注) 1. 持株比率は自己株式（1,769,916株）を控除して計算しております。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社および株式会社日本カストディ銀行の持株数は、信託業務に係るものであります。
3. 株式会社日本カストディ銀行が保有する803,500株には、「株式給付信託（BBT）」に係る信託財産351,200株が含まれております。

所有者別株式数分布

※自己株式は一般国内法人に含んでおります。

一般国内法人 34.16%	個人・その他 41.68%	金融機関 15.95%
外国法人等 7.05%		証券会社 1.16%

株主メモ

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
上 場 取 引 所 東京証券取引所 プライム市場
株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
定 時 株 主 総 会 6月

単 元 株 式 数 100株
公 告 方 法 電子公告 (<https://www.komatsuwall.co.jp>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

K 小松ウオール工業株式会社

石川県小松市工業団地1丁目72番地
www.komatsuwall.co.jp



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

